

The Place for Children After School

地域づくり一括交付金を活用し
「多目的ひろば『すまいる』」を開設
緑台 6-1-79 (平日午前10時—午後6時半)



緑台・陽明コミュニティ協議会 荒木かおりさん

1日仕事を終えてから
子どもたちを見守る

「子どもたちが安心して放課後に遊べる場所が必要だと感じていたんです」

緑台・陽明コミュニティ協議会が6月にスタートした多目的ひろば「すまいる」。スタッフとして協力したいと手を挙げた荒木かおりさんは、仕事をしながら3人の子どもを育てる母親です。

「夫婦ともに仕事がある中で、小学生の子どもたちだけで留守番させるのが心配で。学童もおやつ代などがかかるし、定員で入れないこともあると聞きます。放課後の過ごし方について不自由を感じていました。用事で少し出掛ける時にも、意外と遊び場所には困るんですね」

「すまいる」は地域の誰もが自由に過ごせる場所。デイサービスセンターだった場所を利用し、畳のスペースや机、椅子、おもちゃが備えられています。

夕方以降は子どもも優先。宿題や読書、ボードゲームなど、子どもたちは思い思いの時間を過ごします。



お母さんも一緒に
気分転換できる場所へ

「放課後に子どもたちを行かせると、友達と一緒に宿題をして、終わったら遊んでいるようです。初めて来た子が翌日も続けてきてくれると、『気に入ってくれたんだ』とうれしくなりますね」

子どもたちが安全に過ごすためには、見守りが必要です。交代制で、コミュニティやボランティアのスタッフが常駐しています。荒木さんも、夕方の時間帯に駆け付けます。「仕事を終えてから『すまいる』に来るのは、しんどい時もあります。帰ったら食事の準備もありますし。でもボランティアの方も協力してくれていますし、お互い様ですね」



夏休みが終われば学校が始まると、夕方までの利用者が落ち着くため、その時間の活用を検討しています。自身の経験から、今後は未就学の子どもと親も利用できるようなしたいと荒木さん。



里芋といかの煮物

ひと手間かけて素材本来の味を楽しむ

レシピ 川西消費者の会

- 材料 4人分
- サトイモ …………… 中7個 (500g²)
- スルメイカ …………… 1杯 (300g²)
- 水 …………… 400g²
- 酒・しょうゆ …………… 各大さじ3
- 砂糖 …………… 大さじ2
- 大葉 …………… 2・3枚

熱量 (おとな1人分) : 142kcal、塩分 : 2.1g²

●作り方

- ①サトイモは土を洗い落とし、よく乾かしてから皮をむく。塩 (分量外) をもみこんで、ぬめりを洗い流す。水気を拭き取ったら一口大に切る。
- ②スルメイカは内臓を取り出し、胴と足を1²幅に切る。
- ③鍋に水、酒、砂糖を入れて沸かし、サトイモを入れる。落しぶたと鍋ぶたをして、中火で10分煮る。
- ④竹串が通るぐらい柔らかくなったら落しぶたを取る。スルメイカとしょうゆを加え、汁気が少なくなるまで中火で煮る。
- ⑤器に盛り、大葉を千切りにして飾る。

実際に見聞きして変わる意識

同和対策先進地のまちづくりから学ぶ
市職員の意識に変化

約30年前、川西市の同和対策事業は他の市と比較しても決して進んでいるとはいえない状況でした。それは、市職員の意識の違いでもあったと思います。

そこで、各部署にいる同和担当者は年に数回現地学習を実施。大阪や京都、奈良などの同和対策が進んでいるまちに赴き、実際に現地を見ながら、どのように課題を解決し、まちづくりを進めているか学びました。

総合センターの職員であった私は、何度も引率の一員として同行していたため、先進市の取り組みを目の当たりにしてきたのです。中でも、まちづくりを通して同和対策を行ったという事例が記憶に残っています。

その市では川の流域に同和地区があり、大水が出ると水浸しになってしまう状況だったそうです。対岸は整備されていたのに、同和地区は放置されたままになっていたんです。そこで市では、高台に改良住宅を建て、住民の引っ越しを促したそうです。私は、実際に現場を目にして、地域の問題を見事解決した、手本ともいえるまちづくりがされていると感じました。視察に参加した職員は、同和問題についてだけでなく、まちづくりについても学ぶことができたのです。

現地学習を繰り返し行うことで、現地の教育長や同和対策担当職員、教員など、同和問題の理解が深い人とのつながりができました。そのおかげで、市職員の同和研修の講師に招くこともできました。同和対策が進んでいるまちでは職員の意識も高いため、こういった人の声を聞くことで、職員の意識も変わっていったのではないかと思います。

(緑台小学校区人権啓発推進委員会委員長 矢野端)

偽の警告画面にだまされないで

セキュリティソフト購入への誘導
慌てて電話をしないで

事例 インターネットを使用中、パソコン画面に「ウイルスに感染しています」という表示が突然出た。以前から利用しているセキュリティソフトの事業者からの警告だと思い、連絡先と書いてある番号に電話したら「ウイルス駆除のため、新しいセキュリティソフト (有料) をインストールしてください」と言われた。指示された通り、画面にクレジットカード番号を入力して6,000円を払った後で、英語のメールが届いた。画面を見て連絡したのは海外の事業者だったようだ。だまされたのかもしれない。(75歳 男性)

事例のように警告画面が出る場合や、大きな警告音が鳴り止まない、カウントダウン表示が消えないというケースもあります。このような警告は本当の危険やエラーを知らせるものではなく、消費者の不安をあおり、セキュリティソフトを購入させるための手口の可能性があります。契約先は海外の事業者であることが多く、英語での解約申し出が必要になることもあり、手続きが難しいなどのトラブルにつながります。1回限りの購入だと思っていたのに、翌年、自動更新されてしまったなどの相談もあります。

突然警告画面が表示されても、慌てて表示された電話番号に連絡したり、セキュリティソフトを購入したりしないようにしましょう。契約しているプロバイダや通信会社、パソコンメーカーのサポートを利用して、警告画面を消す方法を聞くこともできます。また、クレジットカードの不正使用を防ぐため、カード会社に連絡してカード番号を変更しましょう。困ったことがあれば消費生活センターに相談してください。